

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

中学校第3学年・義務教育学校9年生の生徒

3. 調査の内容

(1) 教科に関する調査 (国語、数学、理科)

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

4. 調査日時

令和4年4月19日 (火)

II 学力調査の結果【中学校・義務教育学校後期課程】

1. 教科に関する調査結果(平均正答率※)

	国語	数学	理科
全 国	69	51.4	49.3
広島県	69	50	49
府中市	68	49	48
(第一中)	70	50	48

※平均正答率とは、「生徒の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

2 調査問題の趣旨・内容

区分	調査問題の趣旨・内容例
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手を引き付けるような表現になるようにスピーチの内容を工夫して書く。 ○言葉の抑揚や間のとり方などの話し方、聞き手がどのように考えているか考え ○比喻を用いた表現に着目し、類似したものを選択する。 ○スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す。 ○考えの根拠が明確になるように、資料から必要な情報を引用して書き加える。 ○場面と場面、場面と描写を結び付けて内容を解釈し、場面の展開や登場人物の心情の変化を描写をもとに捉える。 ○行書の特徴や書き方、調和した仮名の書き方を捉える。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○正の数と負の数とその計算、文字式の計算をする。一元一次方程式や連立二元一次方程式を解く。 ○平行移動した図形をかく。2直線に1直線が交わってできる角の位置について、正しい記述を選ぶ。 ○比例のグラフから式を求める。二元一次方程式の解を表すグラフを選ぶ。 ○万華鏡の模様について図形間の関係を図形の移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する。 ○六角形をn個作るのに必要なストローの本数を、$6 + 5(n - 1)$という式で求めることができる理由を説明する。 ○与えられたデータを基に、貯水量が1500万m^3になるまでの日数を求める方法を説明する。 ○分布の形に着目して2つの度数分布多角形を比較し、運動時間が420分以上の女子の方が体力テストの合計点が高い傾向にあるといえることの原因を説明する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の中で、物体が静電気をオボている現象を選択する。 ○観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する。 ○分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す。 ○ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する。 ○おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する。 ○玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する。 ○液体が期待に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する。 ○アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する。

3 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題

◇文脈に即して漢字を正しく書く (91.1%)

◇行書の書き方の理解 (87.5%)

◆表現技法の理解 (38.4%)

◆行書の特徴の理解 (39.3%)

◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点

【国語】改善策

・表現技法の効果的な使い方や、応用の仕方など、実際に文章を書く際に用いて書かせたり、書かれた文章の意味について考えさせたりする。

・書写の授業の中で行書で書く際に、その特徴を捉え意識させてから書く。また、専門用語の意味を理解させてから、書く活動をさせる。

【数学】特徴と課題

◇多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している (85.6%)

◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。(80.2%)

◆一次関数の変化の割合の意味を理解している。(23.4%)

◆結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。(28.8%)
特に無回答率が 26.1%という結果になった。

【数学】改善策

・関数関係について、式・表・グラフの関連づけを定着させる。特に、それぞれの関数の式・表・グラフについて、比較しながら共通点や相違点を確認し特徴を理解させる。

・筋道を立てて考え、説明する力をつけていく。問題文を読んで状況を整理し、自分の言葉で説明ができるように、説明の流れを確認する。また、キーワードの穴埋め形式から始まり、記述へつなげられるようにスモールステップで問題に取り組んでいく。

【理科】特徴と課題

◇モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる (80.9%)

◆「地球」を柱とする領域 (41.4%)

特に実験の考察について検討する設問において、全国の正答率と比べて低い正答率となった。

【理科】改善策

- ・生物では共通性・多様性の視点をもつなどの単元別の視点を明確にした後に、知識及び技能を活用する場面を設ける。
- ・観察・実験では、探究の各過程において見通しに沿って進んでいるか振り返ったり、観察・実験を計画する際に、予想や仮説と異なる結果が出た場合について考えたりする。

Ⅲ 学習状況調査の結果

1 学習状況調査（生徒質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目

- 「自分にはよいところがある」と思っている生徒は 86.4%で、全国平均より 24%高い。
- 「先生は、あなたのよい所を認めてくれている」の肯定的回答は 89.1%だった。
- 学校の授業で ICT をほぼ毎日使うと答えた生徒が全国平均よりも 7.7%、週 3 回以上使う生徒が 19.6%活用頻度多い。

肯定的な回答の割合が全国平均値よりも低かった項目

- 「1, 2 年生の授業では課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」の肯定的回答は 50.9%で、全国平均より 28.1%低い。
- 各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を「どちらかといえば、当てはまらない」と答えた生徒が 35.5%で、全国平均より 8.9%高い。
- 携帯電話・スマートフォンなどの使い方について、家の人との約束を守れている生徒は全国平均とほぼ変わらないが、約束がない生徒は 25.5%で全国平均より 7.3%高い。

2 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

- 生徒自ら考えた課題を設定し、解決に向けて協同する場面を増やすなど主体的、対話的で深い学びになるよう授業改善を行う。
- 自己を認識して進路選択して表現する力を育むために、学んだことをいかしながら自分の考えをまとめ、発表する機会を更に設ける。
- 自己肯定感が高く、周囲の大人を信頼している生徒が多い。ICT 機器の使い方なども含め、学校や家庭、地域との連携を密に図りながら生徒の生活習慣の改善を行う。